

ふるさと講座・自然系第1回目

「シギ・チドリ観察会」 のお知らせ！

この時期数多く見られる「シギ・チドリ」を中心とした観察会を行います。ぜひ、ご参加ください。

- 日 時 令和2年5月16日（土）
午前9時30分～12時30分
- 場 所 野付半島
(集合ー野付半島ネイチャーセンター2階)
- 講 師 野付半島ネイチャーセンター センター長 藤井 薫 氏
- 定 員 10名(電話・FAX・メールにて氏名・電話番号を5月15日(金)までにご連絡ください。)
- その他 長靴を着用ください。図鑑・双眼鏡をお持ちの方は持参ください。当館でも貸出しします。



郷土資料館豊原分館開館のお知らせ！

今年度の開館をお知らせします。ぜひ、ご来館ください。



- 開館期間：5月～10月(祝日を除く)
- 開館日：毎週金曜日・毎月最終日曜日
- 開館時間：午前10時～午後4時
- 観覧料：無料
- 所在地：北海道野付郡別海町豊原17番地の15
- その他：①団体見学及び調査研究での来館は、郷土資料館までご連絡ください。
②開館日などに変更があった場合は、郷土資料館ホームページでお知らせします。



【豊原分館】

平成21年(2009)3月に閉校となった旧豊原小学校を活用し、平成28年に郷土資料館分館として開館しました。

町の歴史・自然に関する郷土資料、昭和31年(1956)より、豊原地区で実施された国の新しい開拓方式による草地酪農を目指した根釧パイロットファーム関係資料などを収蔵・展示・公開しています。



幕末の蝦夷地でほうそう 疱瘡（てんねんとう 天然痘）からアイヌを救った人たち

～江戸の種痘医、加賀家文書のほとんどを書き残した

アイヌ語通辞「加賀伝蔵」～

天然痘は、天然痘ウィルスを病原体とする感染症の一つです。疱瘡（ほうそう）、痘瘡（とうそう）ともいいます。人に対して非常に強い感染力を持ち、全身に膿瘡（のうそう）が生じ、致死率が平均 20～50%と高いものでした。天然痘で死亡した最古の例は、紀元前 1100 年代に没したエジプトのラムセス 5 世とされています。日本には中国や朝鮮半島からの渡来人に移動が活発になった 6 世紀半ばと考えられています。戦国武将の伊達政宗が幼少期に右目を失明したのも天然痘によるものであったようです。（以下、疱瘡で統一します。）

蝦夷地での和人の活動が活発になると、疱瘡などの悪性伝染病で死亡するアイヌの人々が相次ぎました。1600 年代からすでに疱瘡でアイヌの人々が多数死亡したとの記録が残っています。一例として、文化 14 年(1817)に石狩場所で疱瘡が流行 2130 人余のうち 926 人が罹病し、833 人が死亡した記録も残っています。

アイヌの人々は、疱瘡を悪魔の仕業と恐れ、集落に発病者が出ると、死者の出た家を焼き払い、悪魔に知られないように、顔に鍋墨を塗り後も見ずに山中に逃げ込んだといわれています。

蝦夷地をとりしきる箱館奉行は、幕府に種痘医師の要請をしました。安政 4 年(1857)4 月幕府は、桑田立斎と深瀬洋春に蝦夷地での種痘（予防接種＝牛痘法）を命じ、この年、桑田立斎が東蝦夷地、深瀬洋春が西蝦夷地で種痘を実施しました。

立斎は、門弟の 3 人の他、子供（苗児）とその親などを連れて、東蝦夷地の種痘を行いました。アイヌの人々が種痘を嫌い、山の中に逃げ去ったり、交通の状態が良くなかったりで困難をきわめました。

子モロ（根室）に、安政 4 年(1857)7 月 15 日に到着し、クナシリ・ノツケ・チャシコツ・ベツカイと渡り根室場所で種痘活動を行いました。立斎の門弟の一人であった井上元長は、安政 5 年(1858)–安政 6 年(1859)に越年して各場所の未種痘者への接種活動を続けました。伝蔵は、この元長を補佐してアイヌの人たちへ種痘接種の趣旨を伝え理解させ、種痘を嫌ったアイヌの説得にあたりました。元長のアイヌに対する接し方も懇切丁寧なものであり、桑田一門は、根室場所の 85% のアイヌに種痘をすることができました。

根室場所での種痘の様子は、伝蔵の日記に記録されており、「昨年(安政 5 年)之種痘之一件にはコリゴリ仕候」と多大な困難があったことを伺わせています。桑田一門の根室場所での種痘実施は、裏方の通辞伝蔵の協力なしでは、このような成果はあげられなかったことと思います。

※天然痘は、1980 年 5 月 8 日、WHO は地球上からの天然痘根絶宣言をしています。

別海町郷土資料館だより No.250

発行日 令和 2 年 5 月 1 日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町 30 番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの日常生活を脅かしています。こうしたウィルスとの戦いは、人類の宿命かもしれません。天然痘で亡くなった人は、3 千年前から認められ、根絶に至るまで長きの時間がかかりましたが、克服してきた歴史もあり、奔走していた人々を忘れてはいけません。（K.I）